

[14]九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート 表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1961316>

出版情報：九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート. 14, 2013-03. Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

技術室レポートの発刊に寄せて

応用力学研究所長 大屋裕二

応用力学研究所の立場には二つの側面があります。一つは九州大学附属の研究所であるということ。昨今の大学改革の中でミッションの再定義という言葉が聞きますが、これは研究所の存在目的を再度明確にし、九州大学の中でその立場を確認するということである。全国、全世界の大学は競争しています。九大が世界の中でトップ 100 大学に常にランク付けられるように附置研究所として研究教育活動を通して九大に貢献していかななくてはなりません。もう一つは共同利用・共同研究拠点として全国の関連する研究者コミュニティに貢献することです。私たちは全国、海外の研究者のために、大型設備、特殊設備の利用提供、世話、あるいは研究集会を通じて広範囲の共同研究を実施し、国内外の研究者に満足していただく協力をしていかななくてはなりません。この二つの立場はともすると大学間競争社会の中において相反する矛盾を孕むかもしれません。しかし、そんな矮小なことを言っているのは科学・工学の発展はないでしょう。よくギブ AND テイクといいますが、私たちの基本的立場はギブ AND ギブでしょう。特にこれからの地球社会には。上記二つの立場に立ちながら、同時に総理工学府、工学府の学生を受け入れ、教育研究指導を日常の業務としてこなしていかななくてはなりません。

このとき、技術職員の人たちの支援、協力がいかに有難いものか日常業務を通して実感しています。日ごろの研究所員の研究活動、共同利用としての外部研究者への協力、学生の指導、これらにおいて技術室の人たちは、自身の研鑽を積みながら、献身的に協力されていると思います。この意味で技術室の皆さんの活動を広く、全国の関連各位に知ってもらうことは大変重要なことです。最近、自らの活動を広報する責務が強調されます。また、それらを通じて技術室という組織、研究所の活動を評価してもらわなくてはなりません。ここに報告されるレポートだけでは、技術室の皆さんの研究、研鑽が各研究室、研究所、国内外の研究者へいかに貢献しているかはほんの一断面しかうかがい知れないでしょう。しかし、少なくとも、どういう学術分野、技術分野、教育分野で技術室の皆さんの活動がなされているかを知ってもらうことができるでしょう。

同時にこれらのレポートをまとめ発表している技術室の皆さん自身も、レポートを作成する過程で、自分の目標設定、研究戦略、結果のまとめと議論などのストーリーが十分に熟考されたものかどうか、あるいはさらに高みに登るためにどういうものを加えていけばよいかの深慮につながるでしょう。自分の考えは書き留めて明確になってくるものでしょう。この技術レポートはそういう意味で国内研究者の活動に寄与し、翻っては各技術職員個人のレベルアップへの強い刺激になることを期待します。

2013 年 3 月